

学校図書館による学校教育への貢献 ーカリキュラム・マネジメントを通してー

西 巻 悦 子

The school libraries' contribution to the education :
Through curriculum management method

Etsuko Nishimaki

【要旨】

現代の学校図書館は、学校教育と学校図書館活動を有機的に結びつけていく具体的な仕組み作りが重要だとされる。本研究の目的は、学校図書館に経営の概念が導入されて以後、学校教育において学校図書館は何が求められているか、カリキュラム・マネジメントとのかかわりから検討することである。研究方法は文献研究である。学校教育において学校図書館はカリキュラムへの支援を通してどのように貢献するのかという視点が必要だと考える。理由は、カリキュラム・マネジメントが学校の教育改善や教育の質の向上にあることを学校長はじめ学校の教職員全員で認識し、学校経営のビジョンに教育の質の向上を掲げる必要があるとされていることである。そこで学校図書館の経営を掌る司書教諭も学校の教育ビジョンを具体化するための一環としてカリキュラムへの支援を行う必要が示唆されている。カリキュラム・マネジメント理論に関する文献と日本におけるカリキュラム・マネジメントに基づく学校図書館活用実践事例を検討した結果、結論として、学校図書館によるカリキュラムへの支援とは教科授業に対する支援だけではなく学校経営におけるカリキュラムの計画・実施・評価・改善に学校図書館活用を反映させていくこと、つまり学校図書館も学校経営におけるカリキュラム・マネジメントに参画する必要があることが明らかになった。

キーワード：経営、運営、教育課程、カリキュラム、学校経営、学校図書館経営

1. 序論

1.1 研究の背景

日本の学校図書館は近年、経営という側面から論じられるようになった。そして、現代の学校図書館には、学校教育と学校図書館活動を有機的に結びつけていく具体的な仕組み作りが重要だとされる。そのような中、1997年には、学校図書館法の一部が改正され、そのため、1998年には「学校図書館司書教諭講習」の科目の見直しが行われ、新たに「学校経営と学校図書館」(2単位)科目が新設され、学校図書館に経営概念の導入が図られた。これは、1999年告示(高等学校は2003年から実施)の学習指導要領に、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と規定され、2011年からの学習指導要領にも踏襲されている。これは学校図書館と教科との連携が不可欠であることを示唆するもので、学校図書館経営には、学校図書館の利活用によって教科を支援していくことが求められているといえる。また、2003年4月からは司書教諭が12学級以上の大規模校に配置されることとなった。学校図書館による教科への支援は個別の教科内容を支援するだけでなく、学校全体の教育課程の編成から実施、および評価にまで関わり、効果的な学校経営を支援することが目指されている。また、教育現場では2003年の学習指導要領の一部改正により、これまでの標準とされた学習指導要領が最低基準となり、柔軟なカリキュラムが模索されている。さらに、次期学習指導要領では、1. の改正の概要(3)に各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立が明示された¹。これは、教育課程による学校教育の質の向上を目指すものである。学校図書館法により教育課程の展開に寄与するとされている学校図書館では、各教科への一層の支援が必要とされる。

学校図書館に教育の効果を目指す経営の概念が導入されたのは、2000年の教育改革国民会議において、学校に組織マネジメントの発想を取り入れる提言がなされ²、学校組織や校務分掌の見直しが求められてきたことによるといえよう。学校組織や校務分掌の見直しが学校図書館にどのような変化をもたらし、今日の学校図書館は学校教育においてどのような役割が求められているのであろうか。

本稿では、キーワードとなる用語を次のように定義する。経営とは『最新・基本経営学用語辞典』によれば、「『実体的な意味で』『機能的な意味で』『企業を経営する』³ことで「英語の管理(management)は、経営すること、管理することなど機能概念」⁴とあることをふまえ、さらに管理(management)は、「ある対象を主体の意図する状態や方向にもたらそうとする制御活動を意味し、人や物、金、情報の管理などが指摘される。経営学では、組織の目標を効率的に達成するために人々の活動を調整すること、という人の管理を指すことが多い」⁵とあることをうけ、組織の目標を効率的に達成するために人や物、金、情報の管理などを行うこと捉える。また、運営は『日本国語大辞典』に「組織や制度などを働かせること」⁶とあることをふまえ、学校図書館の組織を学校の教育目標にあわせて

効果的に動かす働きと捉える。

教育課程とカリキュラムについては、天野正輝が「教育課程は、教育内容についての国家基準によるプラン、しかも立案（構成）レベルのものを表す用語であり、その展開過程は含まれていない。『カリキュラム』には目標、内容・教材のほか、教授・学習活動、評価の活動なども含んだ広い概念として把握している」⁷と指摘している点をふまえ、カリキュラムは、従来の教育課程を含む教育の目標・内容・教材のほか、教授・学習活動・評価の活動なども含んだ広い概念とし、教育課程を学習指導要領の示す教育の内容と捉える。学校経営は『現代学校経営用語辞典』に、「学校における諸活動を計画し、組織編成して教育効果をあげるのにふさわしい教育機関としての学校を運営していく統括の作用」⁸とあることをふまえ、学校経営を学校における諸活動を組織的に運営していく統括の作用と捉える。学校図書館経営については、渡邊重夫が「学校図書館の目的を実現するために、図書館運営の方針を立て、必要な組織をつくり、諸資源（人、メディア、施設・設備など）を効率的に編成しながら、学校図書館事業を継続的に実行すること」⁹であると指摘している点をふまえ、学校図書館が学校教育の目的を支援し教育内容を充実させるために図書館運営の方針を立て、必要な組織をつくり、諸資源を効率的に編成しながら継続的な活動を行うこととする。また、カリキュラム・マネジメントとは「学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく」¹⁰こととされていることをふまえる。

1.2 先行研究

学校図書館は学校図書館の経営と運営にかかわる雑誌記事は、CiNii Articles で学校図書館と経営を論題名キーワードとし、雑誌記事を検索すると 160 件（2017 年 9 月 7 日現在）である。また、学校図書館と運営を論題名キーワードとし、検索すると、307 件（2017 年 9 月 7 日現在）である。学校図書館と経営では、司書教諭の全校配置が打ち出された 2003 年と 2004 年に 7 件、2009 年から 2011 年にも 6 件見られる。学校図書館と運営では、ほぼ毎年のように論文が出されている。

2003 年以後に学校教育における学校図書館の位置付けを経営という視点から研究した論文には平久江祐司が校長のリーダーシップと校内協力体制づくりという点から学校図書館教育を学校経営の中核に据えるという方向を論じた¹¹。2013 年には、神奈川県相模原市立鵜野森中学校の言語活動を基盤として学校図書館経営を行い学校教育の質を高める実践が高く評価されている^{12 13}。また、村山正子は学校経営の要である教科の活動に学校図書館経営で支援した事例を発表している¹⁴。これらは学校図書館経営から学校教育全体や学校の各教科教育を支援した取り組みである。

学校図書館の教育課程支援の先行研究では、司書教諭が教育課程にどのようにかかわるかという議論がなされ、司書教諭による学習指導への協力や支援¹⁵、あるいはモデルカリキュラムの開発や評価¹⁶という点から議論されてきた。次期学習指導要領に盛り込まれる

カリキュラム・マネジメントは学校全体で取り組む活動である。

学校図書館の活動に言及したカリキュラム・マネジメント実践の事例では、中学校司書教諭（当時）の佐藤敬子の報告がある¹⁷。「カリキュラムの中に、資料を『読む（探究する）』学習や『探求の仕方』が、何科で何年生の何月ごろに設定されているかを皆が知ること」が必要だとして、「教科の図書館での調べ学習の際には（中略）できる限り TT で入るようにしている」¹⁸と述べている。これは、司書教諭がカリキュラム・マネジメントを意識して行った実践であるところに意義がある。しかし、教科横断的な相互の関係や学校経営における学校図書館の位置付けが明確ではない。学校図書館担当者による教育課程支援認識の形成をカリキュラム・マネジメントの視点から論じ、学校経営における学校図書館担当者の位置付けが課題であると指摘した文献には筆者の前稿の論文がある¹⁹。また、次期学習指導要領において重要事項として明記されたカリキュラム・マネジメントと学校図書館との関係をアクティブ・ラーニングから指摘した鎌田和宏の論文がある²⁰。なお、本稿ではカリキュラムへの支援とは教科授業への支援を言うだけでなく、カリキュラムにおける目標・内容・教材のほか、教授・学習活動、評価の活動などへ資料提供等を通して支援を行う活動を言うものとする。

1.3 研究の目的と方法

本研究の目的は学校図書館に経営の概念が導入されて以後、学校教育において学校図書館は何が求められているか、カリキュラム・マネジメントとのかかわりから検討することである。研究方法は文献研究である。カリキュラム・マネジメントと学校教育に関連する研究文献と学校図書館がカリキュラム・マネジメントという教育方法を用いて学校教育に貢献した実践事例文献を用いる。カリキュラム・マネジメントの構成要素6点を分析の視点として実践事例について検討した。

2. 学校教育とカリキュラム・マネジメント

田村知子²¹や倉本哲男²²らによるアメリカのカリキュラム・マネジメントの理論的先行研究において、F. イングリッシュの“Improving Curriculum Management in the Schools”²³が取り上げられた。F. イングリッシュは、“Improving Curriculum Management in the Schools”で資源（resources）や教材（materials）の活用を述べている²⁴。resource（資源）とは、学校の設備や人を含むものであることは言うまでもない²⁵。また、カリキュラム・マネジメントとは、Curriculum Construction（カリキュラム構築）、Curriculum Development（カリキュラム開発）、Implementation（実施）、Feedback（反映）、Evaluation（評価）、Modification and Institutionalization or Organized Abandonment（部分修正と制度化または組織的委付）の6つの構成要素に分けられるとし、配信と設計とをもって、マネジメントサイクルが回るという図を提示し、カリキュラム・マネジメントサ

イクルを提示した²⁶。

カリキュラム・マネジメントの用語がはじめて文部科学省の文書に現れたのは2008年中央教育審議会答申²⁷である。そこでは「学習指導要領等の理念を実現するための、各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善を支援する方策」としてあげられている。それでは、日本においてカリキュラム・マネジメントはどのように論じられてきただろうか。

2008年中央教育審議会答申以前にカリキュラム・マネジメントが学校教育における用語として論じられたのは総合的な学習が始まった1998年以降である。1999年に、中留武昭が総合的な学習におけるカリキュラム・マネジメントの役割に言及した²⁸。さらに、学校選択制と特色ある学校づくりの方向においてカリキュラム・マネジメントを論じた²⁹。中留武昭は「各学校が教育目標達成のために、児童・生徒の発達に即した教育内容を諸条件とのかかわりにおいて捉え直し、これを組織化し、能動化することによって一定の教育効果を生み出す経営活動である」³⁰と述べている。

カリキュラム・マネジメントが中教審答申においてとりあげられた2008年以後では、寺崎千秋は2009年の学習指導要領改訂を視野にいれ新教育課程が目指すカリキュラム・マネジメントを論じた³¹。また、天笠茂は2009年に個々の教師の授業力の向上、学校の組織力の向上をカリキュラム・マネジメントの確立を通して図ることが提起され、組織に全体を全体として捉える発想を生むマネジメントこそ新しい学習指導要領が求めているテーマであると指摘した³²。2011年の学習指導要領では学校の自主性・自律性が拡大され、各学校には特色ある学校運営が求められている。そのためカリキュラム・マネジメントは学校運営の変化に対応する手段の一つとして有効であるとの認識が学校現場に広がりつつある³³。また、天笠茂は、カリキュラム・マネジメントと、「PDCAサイクルを回す」「教育内容を相互に関連づけ、横断する」「個々に捉えられがちな教育内容と条件整備を、一体として扱う発想であり、手法」の3点であると述べている³⁴。2017年に文部科学省が示した「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面³⁵と同様である。このように、中教審答申後に学習指導要領が改訂されるという学校教育の方向を法的に規定する流れの中で、カリキュラム・マネジメントが学校教育の一つの手法として位置づけられてきた。

その後、カリキュラム・マネジメントは学校教育における教育改革の方法³⁶として論じられるようになった。

以上のように、カリキュラム・マネジメントの学校教育における意義が明示され、その概念が教育界に広まった。その結果、学校現場で応用され実践の成果が多く報告されるようになり³⁷、カリキュラム・マネジメントの実践による学力の向上を示す報告がなされている³⁸。今日ではカリキュラム・マネジメントは学校教育の一つの手法としてだけでなく、学校教育における学力向上の手法として定着しつつあると言えよう。

文部科学省が「カリキュラム・マネジメント」の重要性の中で「三つの側面」として取り上げている「1. 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた

教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
2. 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立すること。3. 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」³⁹の3点から、日本のカリキュラム・マネジメントに関する論文を国立国会図書館の雑誌記事索引データベース CiNii Articles から抽出し分類した。1の「教科横断的な視点」は3本、2のPDCA サイクルを確立することでは4本、3の人的・物的資源等にかかわることでは5本であった。また、西出勉、山下由紀夫、石塚誠之は、カリキュラム・マネジメントの視点から継続的・組織的な活動を展開した実践から教職員の組織に内在する文化の重要性を指摘している⁴⁰。しかし、そのいずれもが学校図書館とのかかわりについては言及していない。

3. 学校図書館によるカリキュラム・マネジメント支援

文部科学省は2017年3月に「平成27年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」と「平成27年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」を報道発表した。それによると、カリキュラム・マネジメントの確立に向けた授業研究、校内研修等の取り組みを実施している小学校は37.5%、中学校32.2%、高等学校21.0%である。カリキュラム・マネジメントの確立に向けた授業研究、校内研修等の取り組みの実践を報告した文献は少ない。とはいえ、小谷田照代によるカリキュラム・マネジメントの実践記事⁴¹がある。また、小谷田の『平成29年度日本学校図書館研究発表大会要旨集』⁴²と双方を分析対象の資料とした。新聞記事の著者も要旨の著者も専任司書教諭の小谷田である。そこで、具体的事項の指摘はそこでの記述からとした。

3.1 分析の視点と方法

分析の視点はF. イングリッシュがカリキュラム・マネジメントの構成要素⁴³としてあげている点によって設定した。Curriculum Construction（カリキュラム構築）、Curriculum Development（カリキュラム開発）、Implementation（実施）、Feedback（反映）、Evaluation（評価）、Modification and Institutionalization or Organized Abandonment（部分修正と制度化または組織的委付）の6つである。分析の方法は質的分析の考え方を援用し、記事データをコーディング（分類しながらまとめていく作業）していくことでそれぞれカテゴリー（適用の領域）における司書教諭の教育課程支援の特徴を明らかにする。

3.2 分析

①カリキュラム構築と学校図書館

新聞記事の内容では、「円滑な図書館運営のためには、『学校図書館全体計画案』が必

要である。」と指摘している。要旨集の内容では「学校図書館が校舎の中央に置かれ、専任司書教諭がいる。」「研修テーマである『9年間のカリキュラムマネジメントによる確かな学力の保証』に寄与できる学校図書館にしていけばいいのではないか(p.28.)」とあることから、専任司書教諭の提案と実践によりカリキュラム構築に組み込まれるようになったと言える。

②カリキュラム開発と学校図書館

新聞記事の記述では、「カリキュラム会議のときに、スキルが必要な教科の単元を取り出して、どう指導するかについて打ち合わせることとした。学校図書館を全職員が意識できるよい機会となっている。」と述べている。要旨集の記述では「目標は①各学年の年間指導計画を整理し、教育目標と実践をつなぐ。②教科間の関係性を確認し、子どもが各教科で学んだことを、あらゆる機会で総合化するきっかけをつかむ。③「この時期に、この行動が、これだけの時間数をかけてなぜ行うのか」である。(p.28.)」と述べている。学校のカリキュラム開発に学校図書館を結び付ける理由が明示されている。

③カリキュラムの実施

新聞記事の記述では、「朝読書（午前8時から10分間）が週に4日あるため、自由読書だけではなく、授業に関連した読書も計画的に行うようにした。本は、週に1回、学校司書が朝読書を使って紹介した。」と述べている。要旨集の記述では「すべてのカリマネ会議（カリキュラム・マネジメント会議のこと、以下カリマネ会議）において司書教諭は学校図書館を使う授業や情報スキル、思考ツールなどの内容について、各教科や学年を繋いでいった。(pp.28-29.)」と述べている。カリキュラムの実施における学校図書館活用の具体的内容が明示されている。

④カリキュラムの反映

新聞記事の記述では、学習者への影響を「読書に親しみ、読書の幅を広げるために、ビブリオバトルを5年生以上で行った。この結果、友達が紹介してくれた本を読むようになってきた。加えて、本を読んで自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする読書会も行った。読書会では、自分の考えを上手に伝えられた。」と述べている。要旨集の記述では「・全校の教員が学校図書館を学習センターとして活用するためには、カリマの中で話される身に着きたい資質・能力について、司書教諭が「情報活用スキル」の系統表や思考スキルなどと繋げて行くと理解が深まり、次の実践につながった」、また「司書教諭が全ての志部⁴⁴カリマに参加するため、横だけでなく縦も繋がり、指導の方向性を考えることができた(p.29.)」と学研修においてもカリキュラムの実施に好影響が形成されていることがわかる。

⑤カリキュラムの評価

新聞記事の内容は、「開校1年目から、プレゼングランプリを開いている。全校生徒による探究学習の成果発表の場である。発表されたプレゼンスライドも学校図書館に蓄積され、次年度の資料として使えるまでになってきた。」と述べている。要旨集の記述

では「全校の教員が学校図書館を学習センターとして活用するためには、カリマの中で話される身に着けたい資質・能力について、司書教諭が「情報活用スキル」の系統表や思考スキルなどと繋げて行くと理解が深まり、次の実践に繋がっていくことが分かった」と述べている。学校図書館を活用することが好評価を得ていることがわかる。

⑥部分修正と制度化または組織的委付

新聞記事の記述では、「全校で情報スキル習得に取り組むようにした。一昨年度の結果から、教師が指導した情報スキルが意識化されるためには、教科・領域間をつなぐマネジメントが必要になるのが分かった。そのため今年度は、各学年の授業を行う教員が集まって実施するカリキュラム会議のときに、スキルが必要な教科の単元を取り出して、どう指導するかについて打ち合わせることとした。学校図書館を全職員が意識できるよい機会となっている。」と述べている。要旨集の記述では「・研修部では2年間の研修の結果、9年間の系統層性は見えてきたが、教科横断的な視点がたりないという課題が明らかになった。そこで、カリキュラム・マネジメント会議を実施することにした。(p.28.)」、また「すべてのカリマネ会議において司書教諭は学校図書館を使う授業や情報スキル、思考ツールなどの内容について、各教科や学年を繋いでいった。(pp.28-29.)」と述べている。カリキュラム・マネジメントの実施において学校図書館活用に組織的に取り組むことによって成果が上がり、教科や学年といった組織に取り入れられていったプロセスがわかる。

3.3 分析結果

分析結果の①と②は、次期学習指導要領等の理念を踏まえたカリキュラム・マネジメントの三つの側面⁴⁵のうちの1点目である「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。」に収束する。④と⑤は2点目の「教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、評価して改善を図る一連のPDCA サイクルを確立すること。」に収束する。⑤と⑥は3点目の「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」に収束する。

教育内容と指導体制やICT 活用など諸条件の整備・活用を組み合わせ、より効果的な学校図書館活用を進め評価して教育の室の向上に役立てているのである。

下表：記事データ

記事データのコーディング		
視点	新聞記事の記述から	要旨集の記述から
① カリキュラム構築と学校図書館	円滑な図書館運営のためには、「学校図書館全体計画案」が必要である。開校前の旧学校図書館は、学習センターとしての機能がほとんどなかったため、読書センター機能はもちろんのこと、学習・情報センターとして機能し、探究的な学びを支え、学力向上に寄与する学校図書館計画を立案し、実践してきた。	・学校図書館が校舎の中央に置かれ、専任司書教諭がいる。(p.28.) ・研修部では2年間のどうすれば、全職員に理解されるのかを考え、研修テーマである「9年間のカリキュラムマネジメントによる確かな学力の保証」に寄与できる学校図書館にしていけばいいのではないかと仮説を立てた(p.28.)
② カリキュラム開発と学校図書館	各学年の授業を行う教員が集まって実施するカリキュラム会議のときに、スキルが必要な教科の単元を取り出して、どう指導するかについて打ち合わせることとした。学校図書館を全職員が意識できるよい機会となっている。	目標は①各学年の年間指導計画を整理し、教育目標と実践をつなぐ。②教科間の関係性を確認し、子どもが各教科で学んだことを、あらゆる機会でも総合化するきっかけをつかむ。③「この時期に、この行動が、これだけの時間数をかけてなぜ行うのか」である。(p.28.)
③ カリキュラムの実施	朝読書(午前8時から10分間)が週に4日あるため、自由読書だけではなく、授業に関連した読書も計画的に行うようにした。本は、週に1回、学校司書が朝読書を使って紹介した。	すべてのカリマネ会議において司書教諭は学校図書館を使う授業や情報スキル、思考ツールなどの内容について、各教科や学年を繋いでいった。(p.28-29.)
④ カリキュラムの反映について	読書に親しみ、読書の幅を広げるために、ビブリオバトルを5年生以上で行った。この結果、友達が紹介してくれた本を読むようになってきた。加えて、本を読んで自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする読書会も行った。読書会では、自分の考えを上手に伝えられた。	・教科間のつながりが意識できた。特に中学校で学んでいる内容が、他教科の教員に繋がっていない現状が明らかになった。(p.29.)
⑤ カリキュラムの評価について	開校1年目から、プレゼングランプリを開いている。全校生徒による探究学習の成果発表の場である。そこで発表されたプレゼンスライドも学校図書館に蓄積され、次年度の資料として使えるまでになってきた。	・全校の教員が学校図書館を学習センターとして活用するためには、カリマの中で話される身に着きたい資質・野力について、司書教諭が「情報活用スキル」の系統表や思考スキルなどと繋げて行くと理解が深まり、次の実践に繋がっていくことが分かった。 ・司書教諭が全ての志部カリマに参加するため、横だけでなく縦も繋がり、指導の方向性を考えることができた(p.29.)
⑥ 部分修正と制度化または組織的委付について	全校で情報スキル習得に取り組むようにした。一昨年度の結果から、教師が指導した情報スキルが意識化されるためには、教科・領域間をつなぐマネジメントが必要になるのが分かった。そのため今年度は、各学年の授業を行う教員が集まって実施するカリキュラム会議のときに、スキルが必要な教科の単元を取り出して、どう指導するかについて打ち合わせることとした。学校図書館を全職員が意識できるよい機会となっている。	・研修部では2年間の研修の結果、9年間の系統性は見えてきたが、教科横断的な視点がたりないという課題が明らかになった。そこで、カリキュラムマネジメント会議(以下カリマネ)を実施することにした。(p.28.) ・すべてのカリマネ会議において司書教諭は学校図書館を使う授業や情報スキル、思考ツールなどの内容について、各教科や学年を繋いでいった。(p.28.-p.29.)

4. まとめ

司書教諭による教育課程への支援を可能にしている要因を抽出することができる。一つ目は各教科横断的な相互の関係で捉えるにための学校図書館全体計画の作成である。二つ目は、学校内の組織編成である。事例ではカリキュラム・マネジメント会議が行われ、司書教諭はそのすべてに参加し教科や学年と学校図書館を繋いでいる。三つ目は、専任司書教諭であることで学校図書館による教育課程支援の活動時間が確保できている点である。

5. 結論

学校図書館のカリキュラムへの支援は、カリキュラム・マネジメントの目指す学校教育の質の向上や学校教育の改善を目に見える形で具体化するものである。換言すれば、学校図書館によるカリキュラムへの支援とは教科授業に対する支援だけではなく学校経営におけるカリキュラムの計画・実施・評価・改善に学校図書館活用を反映させていくこと、つまり学校図書館も学校経営におけるカリキュラム・マネジメントに参画する必要があることが明らかになったと言える。

学校図書館がカリキュラムへの支援を通して教育の質の向上に貢献するためには、第1に、カリキュラム・マネジメントが学校の教育改善や教育の質の向上にあることを学校長はじめ学校の教職員全員で認識し、学校経営のビジョンに教育の質の向上を掲げる必要がある。第2に、学校図書館の経営を掌る司書教諭がビジョンを具体化するための一環としてカリキュラムへの支援を行うためには、職務遂行のための時間の確保と学校経営に参画する職位に就く必要がある。しかし、司書教諭を教諭の職位にある者から充てるとすると学校教育法、学校図書館法、教職員定数法、地方教育行政組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法等の規定により、兼職にならざるを得ない。そこで教諭からではなく主幹教諭を充て、図書部として独立した組織の長とするならば、前記の法に照らしても運用が可能であり、結果としてカリキュラムへの支援を遂行する時間が確保され、かつ学校経営における企画会議に参画することができる。しかし、そのためには、教職員定数法、地方教育行政組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法等の規定等に照らし、何かしらの運用上の工夫が必要である。そのことについては引き続き今後の研究課題としたい。

カリキュラム・マネジメントとのかかわりから学校教育において学校図書館の使命は、教科授業に対する支援を通して学校経営におけるカリキュラムの計画・実施・評価・改善に学校図書館活用を反映させていくための工夫をし、実践に移すことにある。

Abstract

The school libraries nowadays need a practical system that effectively connects their activities with the school education. Since school libraries introduced the concept of management, they had been required to contribute to the school education. In this paper, I examined it focusing on their involvement in curriculum managements. Through the literature researches, I found following two points. Firstly, all of teachers, including principals, need to share a same recognition that curriculum management is a key for quality enhancement of education. Further, quality enhancement of education is ought to be advocated as a vision of school managements. Secondly, in order to make teacher-librarians realizing the vision and pursuing curriculum-supporting duties, they are ought to be in a position of decision making for such school management and allowed to secure time for concentrate on the duties. The examination results suggest that the school library's curriculum management supports can be extended to the school management's planning, implementation, evaluation and improvements, and not detain only for subject teachings.

注・引用文献

- 1) 平成 29 年 3 月 31 日 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示、小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について（通知）」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
- 2) 中央教育審議会答申「今後の学校の管理・運営の在り方について」（平成 15 年 12 月）[http://fish.miracle.ne.jp/adaken/toshin/tosin24.pdf#search='中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」](http://fish.miracle.ne.jp/adaken/toshin/tosin24.pdf#search='中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」')（参照 2017.10.12）
- 3) 吉田和夫『最新・基本経営学用語辞典』同文館出版,2015,p.65.
- 4) 前掲 3), p.65.
- 5) 前掲 3), p.41.
- 6) 日本大辞典刊行会『日本国語大辞典 第2巻』小学館,1976、p.108.
- 7) 天野正輝『教育課程重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版, 1995, p.21.
- 8) 高倉翔他『現代学校経営用語辞典』第一法規出版, 1980, p.54.
- 9) 渡辺重夫『学校図書館の』勉誠出版, 2013, p.83.
- 10) 前掲 2), p.24.
- 11) 松村真一郎「学校図書館教育を学校経営の中核に（特集 校長のリーダーシップと校内協力体制づくり）」全国学校図書館協議, 学校図書館 (713), 2010, pp. 20-22.

- 12) 神奈川県相模原市立鵜野森中学校「第43回学校図書館賞受賞 言語活動の基盤となる学校図書館経営を目ざして:"普通"の公立中学校にできることは?(その1), 学校図書館 (754), 46-48, 51-54, 2013-08
- 13) 神奈川県相模原市立鵜野森中学校「第43回学校図書館賞受賞 言語活動の基盤となる学校図書館経営を目ざして:"普通"の公立中学校にできることは?(その2)」学校図書館 (755), p.48-p.52, 2013.
- 14) 西出勉・山下由紀夫・石塚誠之「生活科を中核としたカリキュラムマネジメントに関する一考察～保幼小連携活動:『カレーパーティ』の実践事例を通して～」北翔大学教育文化学部紀要創刊号, 2018, p.129-p.140.
- 15) 平野誠「司書教諭による学習指導への協力・支援(特集 司書教諭は教育課程にどのようにかかわるか)」学校図書館, No. 729, p.28-p.30, 2011.
- 16) 前田稔, 徳田 悦子「学校図書館司書教諭の授業をする教員養成大学における新聞活用教育:モデルカリキュラムの開発・実施と評価」学校図書館学研究, No. 14, p.63-p.76, 2012.
- 17) 佐藤敬子「教科と総合で読む・読む・読む!」, 中野和光『教科の充実で学力を伸ばす』(特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発;第2巻)ぎょうせい, 2004, p.42.
- 18) 前掲 17), p.42-p.43.
- 19) 西巻悦子「学校図書館担当者による教育課程支援認識の形成 カリキュラム・マネジメントの視点から」駒沢女子大学研究紀要, 2016, p.205-p.213.
- 20) 鎌田 和宏「次期学習指導要領の理念具現化に貢献する学校図書館:カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングが鍵(特集 新しい学習指導要領を読む)」全国学校図書館協議会「学校図書館」2017.7, p.17-19.
- 21) 田村知子「カリキュラム・マネジメントの理論に関する先行研究」『教育経営学研究』2003, p.95-103.
- 22) 倉本哲男「アメリカのカリキュラム・マネジメントに関する研究:F.Englishのマネジメントサイクル論を中心に」日本教育経営学会紀要, 2003, p.63-p.77.
倉本哲男「カリキュラム・マネジメント評価(Curriculum Management Audit)の研究:トータル・クオリティーマネジメント(TQM)との関係性に着目して」教育経営学研究紀要 6, 2003, p.57-p.65.
倉本哲男「アメリカにおけるカリキュラム・マネジメント論の研究:SLにおけるカリキュラムリーダーシップ論を中心に」飛梅論集:九州大学大学院教育学コース院生論文集, 2004, p.19-p.35.
- 23) English F. & Larson R. "Curriculum management for Educational and Social Service Organization", Charles C. Thomas Publisher, 1996, pp.14-15.
- 24) English, F. "Improving Curriculum Management in the Schools", Council for Basic Education, 1980, p.16.

- 25) Editors-in chief Torsten Husen ,T.Nevilfe Postietwaite.2nd ed.” The international encyclopedia of education vol.3” Oxford,England,1994,p.5061-p.5071.
- 26) English F. & LarsonR. “*Curriculum management for Educational and Social Service Organization*”, CharlesC. ThomasPublisher, 1996, pp.14-15.
- 27) 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm (2017/08/17 参照)
- 28) 中留武昭「総合的学習のカリキュラム・マネジメント」『日本教材文化研究』1999, pp.28-32.
- 29) 中留武昭「学校選択制と特色ある学校づくりの方向－カリキュラム・マネジメントの基軸を探る方向性」『学校運営研究』2001, No. 523. p.37-39.
- 30) 中留武昭・田村知子『カリキュラム・マネジメントが学校を変える』学事出版、2014.
- 31) 寺崎千秋「特集・新教育課程を目指したカリキュラム・マネジメント、学校の教育計画の作成と運営」『教育展望』2009, No. 598. p.12-17.
- 32) 天笠茂「カリキュラム・マネジメントを实践する」『教育展望』2009, No. 600, pp.16-21. 神奈川県立総合教育センター「高等学校のためのカリキュラムマネジメントによる学校改善ガイドブック」2011.
[http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化 %20 高等学校'](http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化%20高等学校') (参照：2017.5.25)
- 33) 神奈川県立総合教育センター「高等学校のためのカリキュラムマネジメントによる学校改善ガイドブック」2011.[http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化 %20 高等学校'](http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化%20高等学校') (参照：2017.5.25)
[http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化 %20 高等学校'](http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化%20高等学校') (参照：2017.5.25)
- 34) 天笠茂・合田哲雄「.なぜ、カリキュラム・マネジメントが必要なのか」教職研修 2015. www.kyouiku-aihatu.co.jp/assets/files/1506tokusyu.pdf
- 35) 4. 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策1)「カリキュラム・マネジメント」の重要性 三つの側面 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364319.htm
- 36) 中留武昭・田村知子『カリキュラム・マネジメントが学校を変える』学事出版,2004,214 p.
- 37) 中留武昭編『カリキュラム・マネジメントの定着過程』教育開発研究所,2005,343 p.
- 38) 田中統治編「確かな学力を育てるカリキュラム・マネジメント」『教職研修』6月号増刊』2005,219 p.
- 39) 神奈川県立総合教育センター「高等学校のためのカリキュラムマネジメントによる学校改善ガイドブック」2011.
[http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化 %20 高等学校'](http://kjd.edu-tr.pref.kanagawa.jp/h18kenkyu/pdf/KarimaneKoukou.pdf#search='カリキュラム視化%20高等学校') (参照：2017.5.25)

- 40) 2017 年 4 月 24 日教育新聞「司書教諭がマネジメントし探究へ 静岡県沼津市立静浦小中一貫学校【学校図書館特集】」
- 41) 小谷田照代「司書教諭がかかわるカリキュラム・マネジメント～学力保証に学校図書館はどう寄与するか」平成 29 年度学校図書館学会研究発表大会『研究発表要旨集』pp.28-29.
- 42) 2017 年 4 月 24 日教育新聞「司書教諭がマネジメントし探究へ 静岡県沼津市立静浦小中一貫学校【学校図書館特集】」
- 43) 前掲 26), pp.28-29.
- 44) 筆者注：静岡県沼津市立静浦小中一貫学校における学年の名称。
- 45) 前掲 35).